



公立豊岡病院の「機関リポジトリ」

内海 盛敏

I. はじめに

公立豊岡病院は1871年(明治4年)に開設、140年の歴史がある。兵庫県北部、京都府北西部の地域の基幹病院として重要な役割を果たしてきた。2005年に新築移転をし、最新鋭の医療機器と設備を保有する。現在、約100名の医師を有し、ドクターヘリ、最新の電子カルテを導入、但馬地域の人々の健康と生命を守っている。

II. リポジトリの概要

公立豊岡病院のHPには、公式HP以外に、公立豊岡病院医療関係者向けウェブサイト side B (<http://www.hospital.toyooka.hyogo.jp/sideB/>)があり、そこに「リポジトリ」を設けている(図1)。

ここでは、当院から発表された、または当院

に蓄積された研究論文・業績、CPCなど、臨床研究などに関係する内容や、各種実績を掲載している。

研究論文は、2007年で第18号を数える「公立豊岡病院紀要 Bulletin of Toyooka Hospital」で、すべての論文の一覧(図2)と、第8号(1996年)以降の抄録が(図3)利用できる。できれば論文全文を公開したいところだが、データが紙ベースでしかなく、全文を手入力するのが業務的に担当者の手に余り、抄録にとどまっている。「公立豊岡病院紀要」は1989年より開始。当時の病院長より、病院として研究業績雑誌を刊行し、論文発表の場をつくり、病院の業績を記録として残そうとの機運が高まり、発刊することとなった。

医師並びに医療関係者は日常診療の多忙さに埋没し研究することを怠りがちだが、地域の基幹病院であるからこそ、多くの症例に恵まれて



図1 公立豊岡病院リポジトリ

■ 公立豊岡病院紀要 研究論文 一覧

Index | リポジトリ 第 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 等

■ 第20号(2008)

広範囲耳介皮膚欠損に対する人工耳介の有用性について	形成外科	松浦 喜良 他
動脈瘤・アテローム下注射により生じた肉芽腫の1例	泌尿器科	澤崎 晴哉 他
下顎エナメル上皮膚に於て4度手術を施行した1例	歯科口腔外科	大塚 真志 他
細胞診断上特徴のある細胞像を呈した乳頭invasive micropapillary carcinomaの1例	検査技術科	小川 啓 他
豊岡病院結核合同対策基盤管理の標準化への取り組み	放射線技術科	福井 秀男 他
当院で経験したファミリーアークの一例	看護部	竹下 晶子 他
医療依存度の高い在宅療養者の緊急・災害時対応指導の効果	地域医療室	岡 由美子 他
長期入院で閉鎖行動を繰り返す患者との関わりでの一考察	看護部	福井 裕恵 他
「看護の質向上を目指す看護記録公開オーディット」の取り組み	看護部	中井 弘美 他

Index | リポジトリ 第 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 等

図2 公立豊岡病院紀要 研究論文 一覧

うつみ もりとし: 公立豊岡病院 管理課研修支援係
kenkyuu.toyooka@toyookahp-kumiai.or.jp

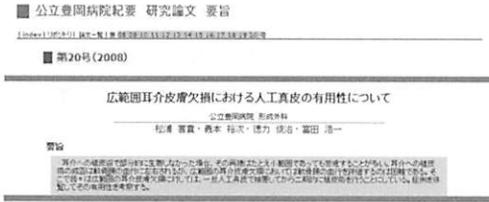


図3 公立豊岡病院紀要 研究論文 要旨

いると言える。常に症例検討や臨床研究を怠ることなく学習に精励し、その成果を日常の診療に還元することが大切である。当院の医療レベルを高め、地域住民の期待に答えるという紀要への期待は、さらにリポジトリにより広く社会へ発信されることで、深まっていくに違いない。

臨床や研究に関係する助成制度（図書・学術研究費助成制度、学会専門医等資格取得・更新費用助成制度）についてもここで紹介している。図書・学術研究費助成制度は2004年より開始。新医師臨床研修医制度の開始に伴い、より研究に力を必要があると感じ、当時の病院長が発案した制度である。職種を問わず、全職員を対象に独自のテーマを公募し（図4）、図書学術委員会にて審査をかけ、選考されたテーマに対し、研究費用を助成する制度である。毎年、5件前後の応募が寄せられる。2011年度も実施が決定している。

平成22年度 応募テーマ	
Ⅰ	ワルファリン療法中に発症した脳蓋内出血症例に対する乾燥人血凝固因子Ⅲ因子複合体投与の有効性と安全性の検討(21年度から継続) ● [研究責任者・所属] 木村 英仁 (脳神経外科) ● [共同研究者・所属] 石井 大嗣 (脳神経外科) ● [助成額] 100,000円
Ⅱ	内服投与による腎臓における腎臓モニタリングシステムの構築 ● [研究責任者・所属] 辻井 聡容 (薬剤部) ● [共同研究者・所属] 大塚 孝文 花里 道 (薬剤部) ● [助成額] 200,000円
Ⅲ	歯科口腔外科的療法におけるMTAセメントの有用性に関する研究 ● [研究責任者・所属] 安田 真也(歯科口腔外科) ● [共同研究者・所属] 田中 昭生 磯部 悠 北本 久登 岡村 知佳 藤田 栞宏 (歯科口腔外科) ● [助成額] 200,000円

図4 応募テーマの例

Ⅲ. リポジトリ導入の経緯および管理

ホームページでのリポジトリ公開開始は2007年(平成19年)であり、まだ歴史は浅い。当時教育研修部研究支援室長補佐であった干場康行氏(現公立朝来梁瀬医療センター事務長心得)が、医師確保対策担当付課長補佐を兼任しており、医師確保の一方策として始めた。初期臨床研修医を募集するに際して、若い人は必ずホームページを見るとの確信からである。紀要の公開は、病院の医療に対する姿勢を医師にアピールできるし、そこで見られる症例が他の施設の医師に資することもある。できるだけ多くの人に見てもらえるよう、HTML化し、Googleなどの検索エンジンに引っかかりやすくなるよう配慮した。図書・学術研究費助成制度がリポジトリにあるのも上記の理由からである。

干場氏はリポジトリに約2年かかわったが、最初の1年でほぼ完成させ、残りの1年をコンテンツの追加や見直しに費やした。またこれらのことを通常業務の合間を見て行わなければならなかったが、雛形さえできてしまえば、後は流し込むだけであり、また最近のホームページ作成ソフトなどはよくできているので、他施設の方がやってみるのは決して難しいことではない。現在当院では、管理課研修支援係の職員が担当しており、新たな動きがあった時に、ホームページ上に登録・管理している。リポジトリに限らず、ホームページの管理はスピード感が必要なので、できれば担当者を専任化するのが望ましいかもしれない。

限られた予算の範囲内ではあるが、職員の医療技術、知識向上のため、研究に力を注ぐ傾向にある。対外的なアピールだけでなく、職員のモチベーションの維持・向上にもつながるため、今後も研究に対するサポートに力を入れていきたい。

Ⅵ. おわりに

医療技術は日々進歩しているが、広く一般の方々の目につく状態とは言い難い。リポジトリ

の公開により、医療関係者のみならず、より多くの人々に興味を持っていただき、社会に貢献できれば幸いである。

この原稿を執筆するに当たり、ご協力いただきました現公立朝来梁瀬医療センター事務長心得の干場康行氏に心よりお礼申し上げます。